図書館専門員

The Osaka University Library Bulletin
(http://www.library.osaka-u.ac.jp/kanpo/kanpmok.htm)
ISSN 0387－4400

大阪大学図書館報

Vol.32 No.3 Dec. 1998（平成10年）通巻131号

目　次

○図書館について想う
○本館の新築工事について
○データベース検索システム利用状況アンケート結果
○教官著作寄贈図書
○お知らせ
・人文系特別図書、高額参考図書の購入
・MacintoshでのCA検索試行
・吹田地区でのＣＡの購入について
○会議・日誌

図書館について想う

岸田　敬三

地球上の人類は生まれそして死ぬという歴史をいったい何回繰り返して現在に至っているのだろう。人類は、地球上では人類だけが、その長い歴史を通して学術と芸術と宗教という自らの財産としての文明を創造し受け継いできた。百科事典などによると図書館とは、図書、記録、その他の必要な資料を収集、整理、保存して、一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクレーションなどに資することを目的とする施設であるとなっている。図書館は人類の財産としての学術を記録し、継承していく崇高な役割をもっている。学術の継承は、生物学的に遺伝子に組み込まれ自然に行われたと言うものではない。人類は獲得した学術を記録し継承するために、言葉や文字あるいは数学などを考え出し、これを磨き上げてきたのであろう。もしも宇宙のどこかに高度な文明を持つ生物がいるとすれば、彼らの文明はどのようなものであろう

か。彼らの財産としての学術の記録はやはり図書館に保存されているのであろうか。序でながら、絵画や彫刻といった芸術は美術館にそのまま保存され、作曲家の業績は楽譜で残る。音楽演奏家としてのカラヤンが録音技術の高度な発展にたいへん大きな期待をもっていたというのも宜なるかなと想われる。

さてここで図書館の歴史を概観してみたい。現在の図書館機能とは必ずしも一致しないが、図書館の源流は文明の発祥期にまで遡ることが出来る。古代バビロニア(前30世紀)の遺跡には楔形文字で粘土板に記録された公文書が集められていた事が分かっている。

確実に図書館と考えられるのは前7世紀のアッシリアの王宮の図書館であって、発掘された粘土板は大英博物館に収められている。前3世紀エジプトのアレクサンドリアにはプトレマイオス王によって作られた図書館があり、パピルスに書かれた巻子本は70万巻といわれる。その内容は詩や劇の文学、雄弁術、哲学および科学が含まれている。神学に関しては別の小さい規模の神殿図書館に保存された。この頃小アジアの文化の中心地ペルガモンにも図書館があり、アレクサンドリアと規模を競い合ったと言われている。図書館はあたかも国力と文化度の尺度でもあったのであろう。なおこの地では書写材料として羊皮紙が用いられた。ローマ時代には皇帝やその一族が各所に図書館を設立し、一般に公開している。

中世初期になるとヨーロッパ各地の修道院が図書館の重要な機能を果たした。修道士たちがキリスト教関係だけでなく広く文芸や科学についても書き写し、今日に伝えて人類に計り知れない貢献をしたのである。しかしこの図書館は一般公衆に開かれていたとは言えず、自由に利用できたのは僧侶だけであった。この頃にはヨーロッパでも羊皮紙が用いられ、巻子本から綴じ本へ変わっていった。9世紀以後、修道院には僧侶志願者のための内校と、修道僧以外の一般の青年にも教育をする外校が出来ていった。12世紀頃から外校は修道院から分化して、将来大学となる学校がヨーロッパ各地に続々と出現した。大学、したがって大学図書館の起源は、フランスのパリ、イタリアのボローニャなどに始まるが、その有名なものにソルボンヌの図書館(13世紀末)がある。なお中国で発明された紙が13世紀頃には書写材料としてヨーロッパにも普及していた。

15世紀中期、グーテンベルグによる活版印刷術の発明により、図書の印刷出版が容易になり、それに伴って読書が広く民衆の間にも普及した。これは学術の公衆への解放であり、宗教改革やルネッサンスの源となった。16世紀にはイタリアでメデイチ家出身の教皇クレメンス7世がミケランジェロに設計を委託して図書館を建設し、一般に公開している。18世紀半ばイギリスでは国立の図書館兼博物館である大英博物館が開館した。19世紀半ばには、グラスゴーで工員たちが職工学校と図書館を自ら建設し運営した。アメリカでも1731年有名な科学者であり政治家でもあったベンジャミン・フランクリンが中心となりフィラデルフィア図書館会社を興し運営した。これらは会員制図書館として出発したが、後には公共図書館に移行している。

日本における図書館の始まりは、8世紀のはじめ奈良朝廷に置かれた図書寮(ずしょりょう)であり、奈良時代末期には豪族の一人石上宅嗣が私邸に設けた芸亭(うんてい)で希望者に閲覧を許したという記録がある。日本では古くは図書館にあたる言葉として、文庫(ふみくら)や文殿(ふみどの)が用いられ、鎌倉時代に北条実時が建てて公開した金沢文庫が有名である。室町から江戸時代にかけては幕府や諸大名が学問所に付随して多くの文庫を造っている。近代になると明治政府は湯島聖堂内に書籍館(しょじゃくかん)を建設したが、これは後に東京図書館と改称された。さらに戦後は、アメリカのLibrary of Congressにならって国立国会図書館が設立されたが、東京図書館はその分館と

しての上野図書館となった。

以上はこの文を書くにあたって少しの時間で仕入れた図書館の歴史である。紙面を汚すこと甚だしいとの危惧を抱くものであるが、もう少し勉強し我が大学図書館を考えていく拠り所としたいと想っている。

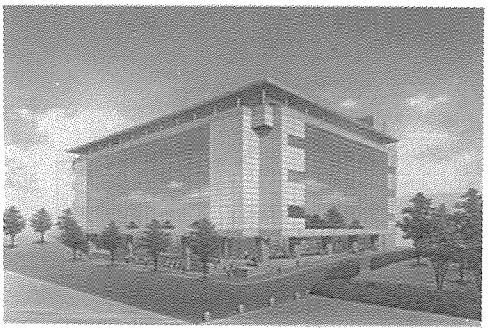
さて学術研究の府としての大学にあって、図書館はその機能をもって、学生に対する教育及び教官の研究活動を支援しなければならない。しかるに我が図書館の現状を観てみると甚だ心細いものである。学生が自ら勉強しようとして図書館に出かけても満足に参考書を見つけることが出来ないという非難の言葉が聞こえる始末である。研究用の資料に至っては各部局の研究費から支援してもらって体裁を何とか保とうとしているのである。この様な事情が学生及び教官の図書館に対する意識の低さを招いているのであろう。

愚痴を言っているばかりでは仕方がない。少しでも学生と研究者の利益となることを考えて図書館の運営を進めていこうと想う。例えば、吹田地区の多くの研究室のご理解とご協力を得て、平成11年よりChemical Abstractsを吹田分館に備え付る事になった。その結果、吹田地区で平成10年に比べて年間およそ600万円の図書費が節約できたのである。また現在、工学研究科の中で重複購入(2誌～5誌)している外国雑誌は108点あって、重複購入を止めて1誌のみとし、吹田分館で閲覧に供する事が出来れば、2000万円の図書費が新たな雑誌購入の財源に見込むことが出来る事になる。手元から雑誌がなくなるという不便さはあるが、現在では電子端末による情報提供サービスが格段に充実し始めている事を考えると、十分見合う選択であるなどと想っている。

(きしだ　けいぞう　工学部教授、吹田分館長)

本館の新築工事について

工事の概略



完成予想図

館報32巻1号でお知らせしましたように、このたび長年の懸案であった図書館本館の増築が実現することになりました。今回はその工事の概略及び工事期間中のサービス変更についてお知らせします。

今回の工事は、現在の本館の北側及び西側に、約9300平方メートルの新館を増築するものです。(図1参照)　また、この工事に伴い既設建物の旧館部分(食堂の上の部分)が全面的に改修されます。

工事の開始は平成11年3月頃で、完成予定は平成12年3月です。

この工事期間中、以下の図2に示すように、図書館の周囲の広い範囲が工事区画となって通行ができなくなり、また既設建物の改修部分も閉鎖されます。そのため、図書館の利用者の皆さんにはかなりのご不便をおかけすることになりますが、ご理解をお願いします。また、図書館下の生協食堂の利用にも相当の影響が出ることになります。

図１　新館略図

新館１階の計画図です。内部の設計は今後若干変更される可能性があります。正面玄関は新館の西側になります。また、基礎工学部、理学部等の利用者の便をはかるため、既設建物の東側にも出入り口が設けられます。

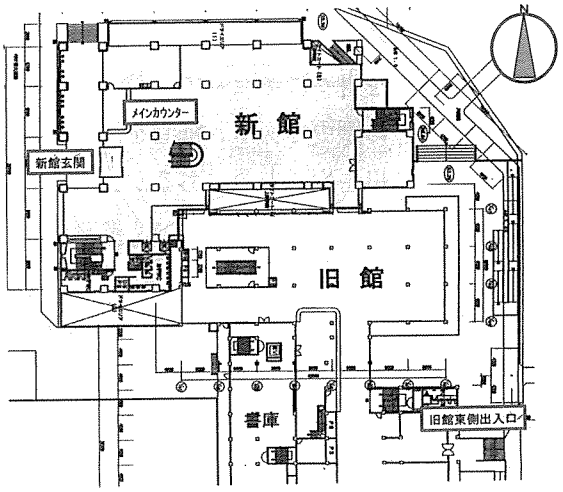
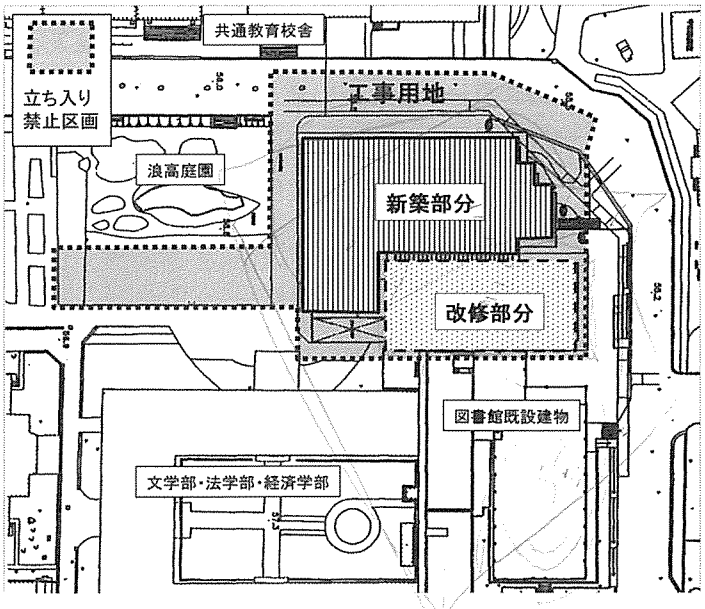


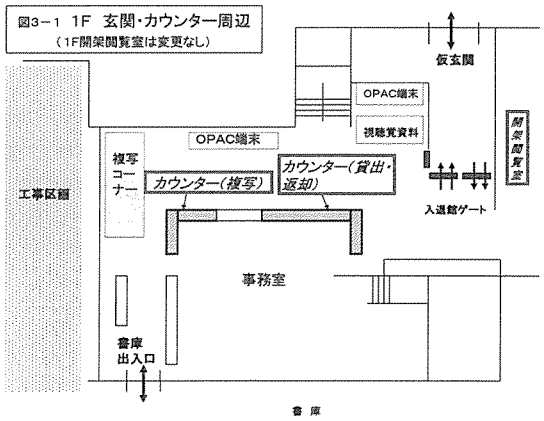
図２　工事区画略図



新館の工事に際して図書館周辺で立ち入り禁止となる区画の図です。実際の工事に際して、若干変更される可能性があります。

図３　工事中の館内略図

新館工事中の図書館内の配置図です。現在の建物の約半分が改修工事のため使用不可能になります。改修期間中は、現在のカード目録コーナーが仮玄関になります。



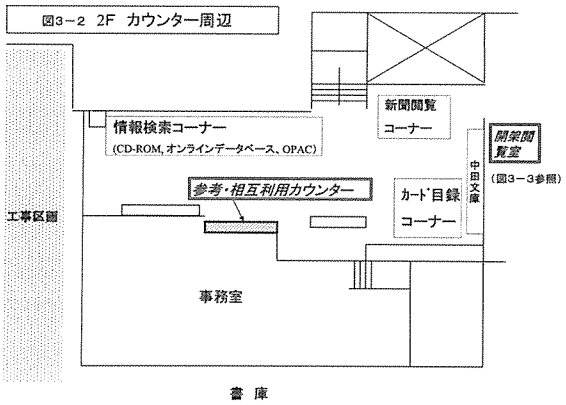
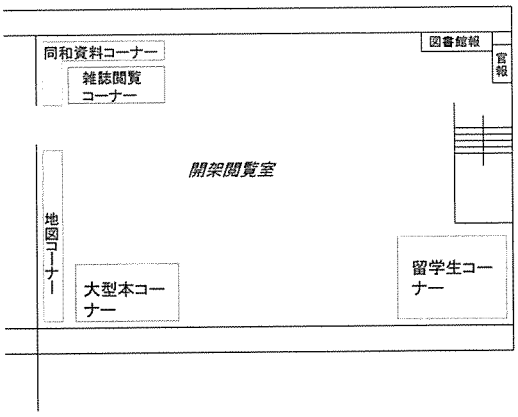


図3－3 2F 開架閲覧室



工事期間中のサービスの変更について（主なものを記載）

1．次の施設・設備が利用できなくなります。

・工事区画内の施設・設備
参考図書室（1階及び2階）、自習室（2階及び3階）、視聴覚室、グループ学習室、ラウンジ、トイレなど

・共同研究室

・情報処理教育センター分散配置端末

※　視聴覚資料の貸出は可能です。（学内利用者）また近畿地区大学放送公開講座の再視聴は生命科学分館で可能です。

※　証明書自動発行機は他部局へ移設されます。

2．次の施設・設備・資料の利用が制限されます。

・ 参考図書
現在1階及び2階閲覧室にある資料は、書庫3層（一部は2階カウンター近辺）に移ります。
現在書庫3層にある古い参考図書は利用できなくなります。

・ ＯＰＡＣ端末
場所が移動し、利用できる台数が少なくなります。

・ 閲覧座席
相当数減少します。

・ カード目録
場所が移動し、利用できるのは閲覧用・研究用の書名目録（和・洋）のみとなります。

・ 書庫棟研究個室
利用できるのは2室となります。

3．上記のほか、次のような場所の変更があります。（図3を参照して下さい。）

・ 玄関

・ 閲覧カウンター・参考カウンター

・ 一部の資料（新着雑誌、新聞、大型本、白書・統計類、地図、留学生用資料など）

4．サービスの制限など

できる限り現在と同様のサービスを行うよう務めますが、工事の必要性などからやむを得ず臨時に、閉館、開館時間の短縮、一部サービスの休止や制限などをする場合があります。特に、平成11年3月から4月頃には、比較的長期の閉館が予想されます。ご理解をお願いします。

これらについては、詳細が決まり次第、掲示や図書館のＷＷＷページなどで広報いたします。

データベース検索システム利用状況アンケートの結果について

本年（１９９８年）１０月に実施しました「データベース検索システム利用状況アンケート」の結果について、概要を報告いたします。

１．回答数、データベース検索システム利用の有無

	配付数	回答数	回答率	利用あり	利用なし
人文・社会系	387	37	9.6%	26	11
理工系	1214	280	23.1%	125	155
医学・生物系	876	208	23.7%	188	20
総計	2477	525	21.2%	339	186

全体としての回答率は約２割でした。データベース検索システムを利用してない方の回答率が低かったため、回答中に占める利用者の割合は、約６５％という高率になっています。

２．主に利用しているデータベース（回答数は、「利用あり」のみの数）

	回答数	Medline	CINAHL	CA	CI	Comp-endex	PsycLIT	EconLIT	ERIC
人文・社会系	26	3	0	0	0	0	5	9	5
理工系	125	44	1	41	8	55	3	1	0
医学・生物系	188	182	2	10	3	1	0	0	0
総計	339	229	3	51	11	56	8	10	5

	Cross Cultural	ILP	MLA	EVD	GBIP	Urlich	Diss. Abst.	雑誌記事索引	無回答
人文・社会系	2	8	3	2	5	4	4	8	0
理工系	0	0	0	0	3	0	1	2	1
医学・生物系	0	0	1	0	2	1	1	3	1
総計	2	8	4	2	10	5	6	13	2

よく利用されているデータベースとしては、圧倒的にMedlineが多く、ついでCompendex、Chemical Abstractsと、実際に利用申請されている数をほぼ反映しています。

３．使用している機器（回答数は、「利用あり」のみの数）

	回答数	Windows	Macintosh	UNIX	その他	無回答
人文・社会系	26	21	9	1	0	1
理工系	125	70	63	15	1	9
医学・生物系	188	69	144	3	0	17
総計	339	160	216	19	1	27

人文・社会系ではWindows利用者がほとんどで、理工系ではWindowsとMacがほぼ同数、医学・生物系ではMac利用者がWindows利用者の２倍以上となっており、研究分野により使用機器の傾向に明らかな差があります。

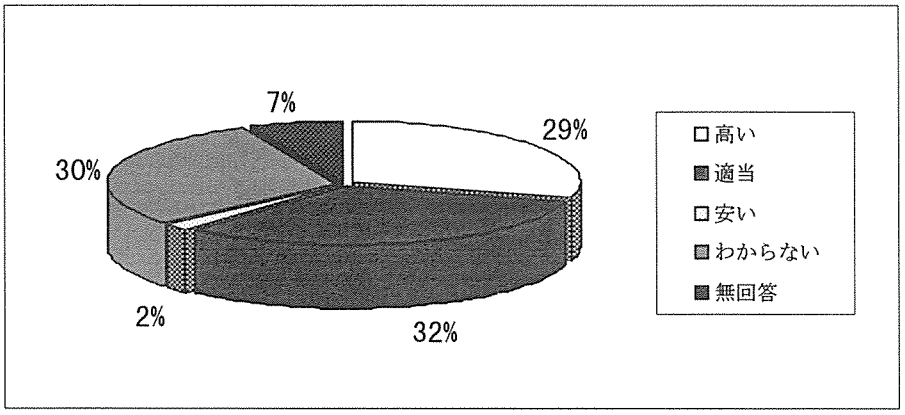
４．利用していない理由（回答数は、「利用なし」のみの数）

	回答数	存在を知らない	利用法がわからない	必要がない	料金が高い	利用したいDBがない	利用できる機器がない	その他	無回答
人文・社会系	11	2	4	2	2	2	0	1	1
理工系	155	19	43	39	40	44	0	22	6
医学・生物系	20	1	4	7	3	0	0	6	3
総計	186	22	51	48	45	46	0	29	10

利用していない理由としては、「利用法がわからない」、「必要がない」、「料金が高い」、「利用したいデータベースがない」がほぼ同数でした。「その他」としては、「インターネットで情報が入手できるので必要ない」という理由が目立ちました。

5．利用料金について

	利用の有無	回答数	高い	適当	安い	わからない	無回答
人文・社会系	Yes	26	5	13	1	5	2
	No	11	3	2	0	4	2
	計	37	8	15	1	9	4
理工系	Yes	125	27	69	4	26	1
	No	155	63	13	2	51	26
	計	280	90	82	6	77	27
医学・生物系	Yes	188	50	71	2	63	2
	No	20	7	2	0	9	2
	計	208	57	73	2	72	4
総計	Yes	339	82	153	7	94	5
	No	186	73	17	2	64	30
	計	525	155	170	9	158	35



上記のグラフに示しているように、料金についての回答は「高い」、「適当」、「わからない」という意見にほぼ三分されています。ただ、現に利用している方の回答に限って見ると、「適当」という回答が約半分（４５％）を占めていました。

新規に導入を希望するデータベースとしては、Current Contents、Beilstein、BIOSIS、INSPEC、SCIなどが、複数の利用者から名を挙げられていました。

また、ご意見等として、データベースの充実、料金についての改善についてのご要望が寄せられたほか、「図書館がデータベースについて課金するのはおかしい」というご意見もありました。 Chemical Abstracts のMacintosh での検索を要望するご意見もいくつか寄せられていましたが、この点は今号の「お知らせ」にもありますように、試用が可能となっております。

お忙しい中ご回答をいただいた皆さんに、ご協力を感謝いたします。

教官著作寄贈図書（1998／Oct.-Dec.）

本館	
田中　規久雄 （法学部、講師）	インターネットで外国法 / 指宿信編著 東京 : 日本評論社, 1998
村橋　俊一 （基礎工学部、教授）	Reactive organometallics / edited by Shun-ichi Murahashi, Yoshihiko Moro-oka, Akio Yamamoto. Tokyo : Kodansha, c1998
西村　孝次郎 （法学部、教授）	中国民族法概論 / 呉宗金編著 ; 西村孝次郎監訳 東京 : 成文堂, 1998
吹田分館	
中村　喜代次 （工学部、教授）	非ニュートン流体力学 / 中村喜代次著 東京 : コロナ社, 1997
中村　喜代次、森　教安 （工学部、助教授）	連続体力学の基礎 / 中村喜代次, 森教安共著 東京 : コロナ社, 1998
豊田　政男 （工学部、教授）	不思議と感動 : すばらしきものを生む技術 / 豊田政男著 東京 : 鋼構造出版, 1998
理学部図書室	
池谷　元司 （理学部、教授）	地震の前、なぜ動物は騒ぐのか : 電磁気地震学の誕生 / 池谷元司著 東京 : 日本放送出版協会, 1998（NHKブックス 822）

お知らせ

○平成10年度人文科学系特別図書、高額参考図書の購入について

10月28日に開催された豊中地区図書選定小委員会において、次の資料の購入が決定しました。

人文科学系特別図書

1．教育環境研究

"Environmental Ethics"、"Comprehensive Clinical Psychology"の二つの論文集からなるコレクション。

2．韓国近代新聞叢書

19世紀末から1970年代までに発行された日刊新聞の影印を中心とする叢書。

高額参考図書

1．Routledge Encyclopedia of Philosophy

10巻からなる哲学大事典。

2．Education: the Complete Encyclopedia on CD-ROM

"The International Encyclopedia of Education"と"Encyclopedia of Higher Education"を統合したCD-ROM版教育百科事典。

3．週刊エコノミスト目次総覧

1923年から1998年までの『週刊エコノミスト』誌の目次総覧。

4．復刻版　経済大辞書

明治43年～大正5年にかけて出版された経済大辞書の復刻版。

5．Comprehensive Natural Products Chemistry

天然物化学のデータ集。

6．Encyclopedia of Plant Physiology

植物生理学百科事典、新シリーズ。

7．Bibliographie Nationale Française. CD-ROM

フランス全国書誌のCD-ROM版。

8．Fuzier-Herman Repertoire général alphabétique du droit française

フランス法総覧。

○MacintoshによるChemical Abstractsの検索試行について

かねてからご要望の多かったMacintoshによるChemical Abstracts(CA, CI)の検索ですが、このたび技術的問題が解決いたしましたので、テスト公開を実施することになりました。

現在、データベース検索システムでChemical Abstractsの検索可能なIDをお持ちの方は、システム管理掛宛にご連絡いただければ、同一IDでMacintoshでも検索可能となるように設定いたします。

また、現在CA用のIDをお持ちでない方でも、今年度中は下記のゲスト ID により試用することができます。ゲスト ID については、下記のWWWページをごらんください。検索機器・ソフトの設定手順についても、下記のページから参照することができます。

http://www.library.osaka-u.ac.jp/syskan/database/mac-ca.htm

（学内からのアクセス専用です。）

システム管理掛の連絡先：

syskan@library.osaka-u.ac.jp

○吹田地区のＣＡ(Chemical Abstracts)冊子体を吹田分館に配置

高騰を続けている外国雑誌に対処して、平成11年度より吹田地区におけるＣＡ冊子体の購入を１部とし、関連する研究室の協力を得て共同購入することになりました。配置場所は吹田分館とし、バックナンバーについても吹田分館関連部局より近々移す予定にしています。

なお、吹田分館では今回の共同購入の方法を、今後他の高額図書資料購入に適用するためのモデルケースにしたいと考えています。

会　議

分館長会議

9．9（水）10：05～12：50

1．本館新築計画について、９月11日開催の本館新築計画検討ワーキンググループの議事の進め方について協議した。

2．附属図書館研究開発室（仮称）の設置について審議の結果、継続審議となった。

吹田地区運営委員会

9.30（水）10:00～11:30

1．吹田分館備え付け研究用図書資料の購入方法について

関係部局・専攻の購入金額の負担方法を、従来の当該タイトル毎に行う方法を改め、部局の教官及び院生の数による比率で、応分の負担をする改善案が提示され、審議の結果原案どおり承認された。

2．Landolt-Börnstein の購入について

高額のうえ値上がり幅が非常に大きくなったため、吹田分館では今後継続購入することが困難と判断し、中止することが承認された。

分館長会議

11.11（水）10：00〜12：06

1．サイバーメディアセンター設置構想における附属図書館の連携の方法について協議した。

2．附属図書館研究開発室（仮称）及び「電子情報サービス検討委員会」を発展させた「電子図書館システム専門委員会（仮称）」の設置について、審議の結果了承し、体系検討小委員会に諮ることになった。

体系検討小委員会

11.17（火）10：00〜11：35

1．附属図書館研究開発室（仮称）及び「電子情報サービス検討委員会」を発展させた「電子図書館システム専門委員会（仮称）」の設置について審議の結果、了承された。

2．サイバーメディアセンター設置構想における附属図書館の連携の方法について意見交換があった。

日　誌

H.10.	9. 4	本館新築計画事務部ワーキンググループ	（本館）
	9. 9	分館長会議	（本館）
	9. 11	本館新築計画検討ワーキンググループ（第7回）	（本館）
	9. 24	国立大学図書館協議会情報資源共用・保存特別委員会及び同ワーキンググループ	（東京工業大学）
	9. 28	国立大学図書館協議会図書館電子化システム特別委員会第1回近畿地区ワーキンググループ	（京都大学）
	9. 30	吹田地区運営委員会	（吹田分館）
	10. 9	本館新築計画事務部ワーキンググループ	（本館）
	10. 13	本館新築計画検討ワーキンググループ（第8回）	（本館）
	10. 14	第31回国立七大学附属図書館部課長会議	（京都大学）
	10. 15	第72次国立七大学附属図書館協議会	（京都大学）
	10. 19〜11. 6	総合目録データベース実務研修	（学術情報センター）
	11. 4	学術情報センターと国立大学図書館協議会との業務連絡会	（東京大学）
	11. 5	国立大学図書館協議会常務理事会	（東北大学）
	11. 6	国立大学図書館協議会理事会等	（東北大学）
	11. 9〜12	平成10年度大学図書館職員講習会	（京都大学）
	11. 11	分館長会議	（本館）
	11. 17	体系検討小委員会	（本館）
		新ＩＲシステム及び新ＣＡＴ／ＩＬＬシステム説明会	（京都大学）
	11. 25〜26	第11回国立大学図書館協議会シンポジウム	（広島大学）
	11. 30	平成10年度大学図書館に関するヒアリング	（京都大学）

大阪大学図書館報　Vol.32　No.3　　通巻131号　1998年12月31日発行
発行所　大阪大学附属図書館　〒560-0043 豊中市待兼山町1の4　☎06(6850)5062
e-mail：sanko-honkan@library.osaka-u.ac.jp